魚津市埋蔵文化財調査報告第13集

富山県魚津市

遺跡分布調査概要III

1985

魚津市教育委員会

例　　言

1．本書は魚津市教育委員会が国庫補助金の交付を受けて実施した昭和59年度の遺跡分布調査事業の概要報告書である。

2．調査は昭和59年７月～12月，昭和60年３月の２期にわたって実施した。

3．調査対象地区は，北陸自動車道の東側一帯を対象とした。

4．調査の方法は踏査を原則とし，発掘調査はおこなっていない。

5．調査は，埋蔵文化財包蔵地を市教委学芸員麻柄が，中世城郭を菅沼幸春が担当した。

I はじめに

魚津市教育委員会では昭和57年度より国庫補助金の交付を受け，今後開発が予想される，郊外の洪積台地を中心とした遺跡の詳細分布調査事業を実施している。市内の遺跡分布調査は，昭和47年度に魚津市教育委員会が主体となり，魚津考古学研究会の諸氏が調査員となり，市内全域を対象としておこなわれている。しかし，その後新たに発見された遺跡も多く，近年の効外の丘陵地帯を対象とした開発が盛んになる傾向もあり，再度分布調査をおこなう必要が生じていた。

魚津市内での遺跡の大規模な破壊は1960年代の後半に始まる河岸段丘・低丘陵を対象とした圃場整備によるところが大きい。魚津市の地形は，発達した洪積台地が海岸近くまで延び，少ない沖積地も大河川の氾濫原であり，そのため中世以来，洪積台地が生産基盤となっている。洪積台地は水田化が著しく，縄文時代の集落の立地している所まで水田として開かれ，近年の圃場整備の対象となった。富山平野の縄文時代の遺跡の立地は東日本型で，河岸段丘・低丘陵上に集中している。圃場整備に先立って緊急調査が実施されたのは，石垣遺跡（文献１），佐伯遺跡（文献２），早月上野遺跡（文献３）など数遺跡を数えるのみで，他はいつのまにか消滅していたようである。

1980年からは北陸自動車道の建設に先立つ緊急調査が標高50～70ｍの丘陵上でおこなわれたが，この調査の前に，予定路線周辺の分布調査がおこなわれており，新たに数多くの遺跡が発見された。1982年には北陸自動車道の朝日―滑川間が開通し，それに伴い工場誘致がはかられ，また，国道８号線バイパス，北陸新幹線の建設も計画が具体化する中で，洪積台地の分布調査をさらに詳細におこなう必要が生じた。

さらに山間部に目を移せば，1970年代の前半までに平野部に面した段丘や低丘陵の圃場整備が終了し，1970年代の後半からは小規模な水田地帯まで対象とされた。またこれと並行して，林道建設もさかんにおこなわれるようになった。魚津市の山間部には，富山県東部最大の中世城郭として著名な松倉城跡があり，その支城も周辺に散在する。これらの支城等の城郭遺構で，史跡に指定されているものだけでも７件を数える。しかしながら，これらの城郭群の保護は充分とはいいがたく，1978年に松倉城の麓に位置し，松倉城に関係ある館跡と伝えられる通称「オヤシキ」が圃場整備で破壊され，また，升方城，石の門，水尾城と続く尾根上を林道が縦断し，城郭遺構が破壊された。こうした経緯から山間部の城郭遺構を中心とした遺跡の分布調査の必要性も生じていた。

分布調査の初年度は，国道８号線バイパス建設予定地周辺と，洗足学園魚津短期大学の開学によって今後開発の予定される天神台地を対象とした。この調査では，８号線バイパス予定地周辺で14ヶ所，天神台地で10ヶ所の遺跡が確認された（文献４）。

２年目の昨年度は，早月川と角川に挟まれた中島地区とその南側に位置する山間部を対象とした。踏査した範囲は，沖積地・洪積台地，山間部に亘っている。沖積地は下中島地区，洪積台地は上中島地区，山間部は松倉地区に相当する。このうち洪積台地は，圃場整備が市内では比較的

遅かったために，分布調査・試掘が実施され遺跡分布の実態はかなり把握されている。これに対して，沖積地・山間地はほとんど分布調査がおこなわれておらず，沖積地の水族館・レジャー施設の建設による開発，山間部の林道建設に対応するため分布調査が必要とされていた。踏査の結果18ヶ所の遺跡が確認された(文献５)。

３年目の今年度は，北陸自動車道の東側で，初年度，２年度の調査対象外となった地区に対して分布調査をおこなった。今年度の対象地区では今後さほど大きな開発は予想されていないが，山間部では林道建設がさかんにおこなわれており，松倉城を中心とした城郭遺構の分布状況の把握が急務となっている。

分布調査で確認された遺跡（散布地）

番号	遺跡名	所在地	所属年代	立地	出土品	県地図番号
1	湯上Ａ遺跡	魚津市湯上	縄文	丘陵		1061
2	湯上Ｂ遺跡	魚津市湯上	縄文～古墳	丘陵	土器・石器	1060
3	湯上Ｃ遺跡	魚津市湯上字道割	古墳？	丘陵		1062
4	宮津Ｃ遺跡	魚津市宮津	縄文	段丘	土器	
5	大谷遺跡	魚津市大谷	縄文？	丘陵	石剣	
6	石垣遺跡	魚津市石垣	縄文・中世	台地	土器・石器	1077
7	石垣平Ａ遺跡	魚津市石垣平	旧石器・縄文	台地	石器	1078
8	石垣平Ｂ遺跡	魚津市石垣平	縄文	台地	土器	1079
9	大菅沼Ａ遺跡	魚津市大菅沼	縄文	盆地	土器・石器	
10	大菅沼Ｂ遺跡	魚津市大菅沼	縄文	盆地	石棒	
11	北山遺跡	魚津市北山	縄文？	山腹		
12	坪野遺跡	魚津市坪野	縄文	盆地	土器・石器	
13	鹿熊オヤシキ遺跡	魚津市鹿熊字オヤシキ	平安～中世	台地	土器	
14	金山谷横穴	魚津市金山谷	中世	山腹	土器	
15	中山遺跡	魚津市小川寺	縄文	丘陵	土器・石器	1082
16	観音山遺跡	魚津市小川寺	縄文	丘陵	土器・石器	1083
17	西の川原遺跡	魚津市小川寺	縄文	丘陵	土器・石器	1086
18	吉兵衛遺跡	魚津市小川寺	縄文	丘陵	土器・石器	1087
19	長引野Ａ遺跡	魚津市長引野	縄文	台地	土器・石器	
20	長引野Ｂ遺跡	魚津市長引野	縄文	台地	土器・石器	
21	桜峠遺跡	魚津市布施爪上野	縄文	台地	土器・石器	1081
22	黒沢遺跡	魚津市黒沢	縄文・中世	段丘	土器・石器	1080

II　各遺跡の概要（散布地）

1．湯上A遺跡（第1図1）

北陸自動車道魚津サービスエリアの東側の南に面した畑が遺跡である。かつて縄文土器が採集された記録があるが，今回の踏査では採集物はない。北陸自動車道建設に先立つ分布調査では縄文時代の遺跡であることが確認されている（文献6）。

2．湯上B遺跡（第1図2）

北陸自動車道魚津サービスエリア一帯が遺跡である。北陸自動車道建設に先立つ緊急調査で，縄文時代から古墳時代の遺跡であることが判明している。弥生時代終末～古墳時代初頭の竪穴住居跡が3棟，古墳時代前期の住居跡が1棟検出されている。古墳時代前期の住居跡は富山県内に類例がなく貴重なものである。縄文時代前期後葉から弥生時代中期にかけての土器片は台地全体から散漫に出土している。こうしたあり方は，湯上A遺跡が小規模な散布地と考えられる点なども合せれば，湯上台地全体の遺跡のあり方を示しているようである。

遺跡の範囲は明確ではないが，発掘区での出土状況から外に広がっていることが充分に予想される。北陸自動車道の東側にスーパー農道の建設が予定されているので，何らかの保護措置が必要であろう（文献7）。

3．湯上C遺跡（第1図3）

湯上集落の東側の丘陵上に遺跡は位置する。古くから遺跡の存在は知られており，北陸自動車道の建設に先き立って分布調査がおこなわれ，古墳時代の遺跡と確認された。しかし発掘調査では，遺物の出土はなく，遺構も確認されていない。今回の調査でも遺物は採集することができなかった。

4．宮津C遺跡（第1図4）

湯上B遺跡の位置する丘陵の北隣の舌状台地に遺跡は位置する。やはり北陸自動車道の予定地に含まれており，分布調査で発見された。しかし発掘調査の実施される前に高架橋の建設等で，遺跡は破壊されたようで，調査では遺物は出土していない。谷に面した地点でかつて縄文土器片を採集している。今回の踏査では何も採集できなかった。

5．大谷遺跡（第1図5）

大谷温泉の県道を挟んで北側の台地より磨製石剣が1点採集されている。今回の調査でも周辺の踏査をおこなったが，詳細は不明である。

6．石垣遺跡（第1図6）

石垣遺跡は明治40年の新道建設の際発見されている。その規模といい知名度といい魚津市を代表する縄文時代の遺跡の一つである。昭和45年，46年に発掘調査が実施されている。古くから縄文時代の遺跡として著名であったが，この一連の調査で中世の遺物遺構が発見され，中世の遺跡であったことも判明している。発掘の後，圃場整備が実施されており，現在では水田の一部で土器片が僅かに採集されているにすぎない。

7．石垣平Ａ遺跡（第１図７）

片貝川の上位段丘上に遺跡は立地している。鉄石英の剝片・砕片・頁岩の石刀・砕片が採集されている。頁岩製のものは旧石器時代に属すると思われる。縄文土器の採集はないが，鉄石英の石器類は縄文時代に属すると思われる。

8．石垣平Ｂ遺跡（第１図８）

石垣平Ａ遺跡に隣接する。細かな縄文土器片が採集されているが，時期等は不明である。

9．大菅沼Ａ遺跡（第１図９）

大菅沼集落の東の水田中に遺跡は立地する。昭和40年代に圃場整備がおこなわれ，遺跡は破壊されている。縄文時代中期中葉の土器が採集されている。

10．大菅沼Ｂ遺跡（第１図10）

大菅沼Ａ遺跡から200～300ｍ西の墓地の中に大形石棒がみられる。地上に約50cm余り出ており，実際は70～100cmを測るものと思われる。付近からほかに遺物が採集されておらず，大菅沼Ａ遺跡から出土したものが，ここに置かれたものと考えられる。

11．北山遺跡（第１図11）

金山城の北側の斜面に遺跡は立地する。詳細は不明である。

12．坪野遺跡（第１図12）

坪野集落の南の小丘陵に遺跡は立地する。縄文時代中期の土器片と多数の魚津産黒曜石が採集されている。

13．鹿熊オヤシキ遺跡（第１図13）

鹿熊集落の北側の斜面に位置する。字名がオヤシキ・テラヤシキ等中世の松倉城に関連することが予想されたが，昭和53年に圃場整備が実施され，破壊された。出土遺物は，古いもので，須恵器があり，珠洲焼，貿易陶磁，土師質小皿が大量にある。そのほかに武具も採集されており，中世に松倉城の城下町であったと思われる。

14．金山谷横穴（第１図14）

金山谷地内の県道に面した山腹の工事中に横穴が発見されている。中からは土師質の小皿等が発見されているがその性格は不明である。

15．中山遺跡（第１図15）

ゴルフ場内に位置する。大部分がゴルフ場の建設のため破壊されている。採集遺物としては，縄文時代晩期後葉の土器片がある。

16．観音山遺跡（第１図16）

千光寺観音堂の裏の上位段丘上に遺跡は位置する。縄文土器の細片が採集されているが，詳細は不明である。

17．西の川原遺跡（第１図17）

中山遺跡の東約500ｍの地点に位置する。小川寺川に面した舌状台地上で，縄文土器・石器が採集されている。

18．吉兵衛遺跡（第１図18）

西の川原遺跡の東隣に位置する。やはり小川寺川に面した舌状台地上に立地する。この一帯は現在はゴルフ場となっているが，良好な舌状台地が多く，このほかにも遺跡が存在した可能性は高い。

19．長引野Ａ遺跡（第１図19）

観音山遺跡と同じ高位段丘上に位置する。縄文時代中期の土器が採集されている。

20．長引野Ｂ遺跡（第１図20）

観音山遺跡，長引野Ａ遺跡と同様の高位段丘上に位置する。縄文時代中期の土器が採集されているが，規模は小さい。

21．桜峠遺跡（第１図21）

縄文時代早期の押型文土器の出土で著名な遺跡である。中心は縄文時代中期にあり，土器・石器が多数採集されている。

22．黒沢遺跡（第１図22）

布施川に面した舌状台地に位置する。昭和40年代に圃場整備が実施されており，遺跡は完全に破壊されている。遺物は台地全体に散布しており，縄文時代前期から晩期の遺物，中世の珠洲焼が採集されている。

III　中世城郭および関連遺構

今回の踏査では松倉城を中心とする数多くの城郭が確認された。従来，松倉城周辺では，金山城，坪野城が松倉城の支城として知られていたが，そのほかに新たに９ヶ所の城郭と多数の城郭に関連する遺構が確認された。

Ａ．松倉城（第１図Ａ）

松倉城は，空堀によって区切られた５つの郭を中心に周辺に多数の平坦地が設けられている。特に北西側には塁々と平担地が続いており，館跡と考えられている大見城平，独立した砦状の諏訪平へと続いている。

松倉城の郭は，通称三の丸，四の丸に土塁が，本丸の周囲に土塁が設けられている。松倉城の北東約500ｍの標高約430ｍの地点にも砦跡とみられる郭が，さらに東約200ｍの地点にも小規模な郭が存在する。このほかに独立した砦跡とみられる郭が，松倉城の南西約400ｍの地点にも設けられている。

Ｂ．金山城（第１図Ｂ）

北山鉱泉の南の独立丘陵上に立地する。山頂に平坦地がみられ，斜面にも何段かの削平地が設けられている。空堀は南西端に幅４～５ｍのものが設けられている。長さは約200ｍ，幅は50ｍほどである。

Ｃ．坪野城（第１図Ｃ）

坪野集落の東側の山頂に築かれている。頂部は約40ｍ四方で，東側と西側に帯郭状の削平地がみられる。このほかに北側に空堀が３ヶ所，南側にも１ヶ所，東側にも２ヶ所みられる。山頂部からの眺望はよく，松倉城，升方城，金山城などが望める。

Ｄ．No.１城郭（第１図Ｄ）

大熊集落の北東の小高い丘陵上（標高約340ｍ）に位置する。尾根続きの南側は幅広い空堀で仕切られており，北側には土塁が数ヶ所と門跡がある。頂部は２段に削平されており，南北約100ｍ東西約40ｍを測る。

Ｅ．No.２城郭（第１図Ｅ）

坪野林道が，坪野・北山の盆地から池原・古鹿熊にぬける大表峠の北西に砦跡がある。この峠のすぐ北側には松倉城の水源地と伝えられる伝長五郎屋敷がある。砦跡は幅約２～３ｍ，長さ10ｍ前後の小規模な空堀が20本近く東側と西側にみられ，南側は明瞭な遺構はみられない。規模は東西約150ｍ，南北約50ｍ。

Ｆ．No.３城郭（第１図Ｆ）

坪野林道の西側に接する小さな独立丘陵上に位置している。南北約100ｍ，東西約30ｍ。遺構としては，北側と南側に小さな空堀が設けられているのと，西側に帯郭状の段がある。北側が一段高くなっており，主郭と思われる。

Ｇ．No.４城郭（第１図Ｇ）

池谷集落の東側の標高約330ｍの独立丘陵上に位置する。丘陵の東端に空堀が設けられている以外，目立った遺構はみとめられない。東西約250ｍ，南北約50ｍ。

Ｈ．No.5 城郭（第１図Ｈ）

金山城の北西約400ｍの地点に位置する。東西約100ｍ，南北約50ｍの規模で，中央部が幅の広い空堀りで区切られている。東側が主郭とみられ，東端が一段高く，また北西部に帯郭状の平坦地がある。主郭の北西隅に竪堀がみられる。

Ｉ．No.6 城郭（第１図Ｉ）

湯上Ｂ遺跡の東側約700ｍの地点に位置する。開木山からのびる丘陵の西に突き出た標高約170ｍの細長い独立丘陵上に築かれている。東西約300ｍ，南北約70ｍの規模で，空堀は東側に３ヶ所，西側に２ヶ所みられる。そのほか尾根続きの東側に土塁や段状の遺構が集中してみられる。松倉城を中心とする城郭群の中で最も西側に位置する。

Ｊ．No.7 城郭（第１図Ｊ）

稗畠地内に後藤城という小字が存在することより，城郭の存在が予想されていた。稗畠集落の北側の標高約210ｍの山頂部に城郭は位置する。空堀・削平地が数ヶ所確認されているが，規模等の詳細は不明である。

Ｋ．No.8 城郭（第１図Ｋ）

大谷より坪野へぬける県道の北側に砦跡が存在する。北に向けのびる細長い舌状丘陵の先端に築かれており，南側の尾根は２本の空堀りで仕切られている。北側には帯郭がみられる。南北約90ｍ，東西約50ｍの小規模な砦跡である。

Ｌ．No.9 城郭（第１図Ｌ）

金山谷集落の東に角川に突出してのびる丘陵がある。この丘陵の尾根上に空堀等の遺構がみられる。城郭としての規模は不明である。

Ｍ．No.10城郭（第１図Ｍ）

No.９城郭の北側に位置する。やはり金山谷集落にみびる細長い丘陵上に遺構が確認できるが，詳細は不明である。

Ｎ．No.11城郭（第１図Ｎ）

金山谷と鹿熊の中間に位置する。東からのびる丘陵の先端部に位置する独立丘陵上である。東側は２本の空堀りによって仕切られている。西側には長い空堀があり，空堀の南側には土塁が設けられている。空堀を利用した通路のようである。山頂部はほとんど手が加えられていないが北斜面に３本の竪堀が設けられており，西側の一段低い所が削平されており，この削平地の南に大きな土塁がある。

Ｏ．No.12城郭（第１図Ｏ）

鹿熊集落の東側になだらかな斜面が広がるその東に接した丘陵端部に空堀と土塁がみられる。幅約５ｍの空堀を尾根を切るように設けられているが，その他に明確な遺構はみとめられない。土塁は空堀の東に設けられており，尾根に沿って竪堀りもみられる。

P．No.13城郭（第１図P）

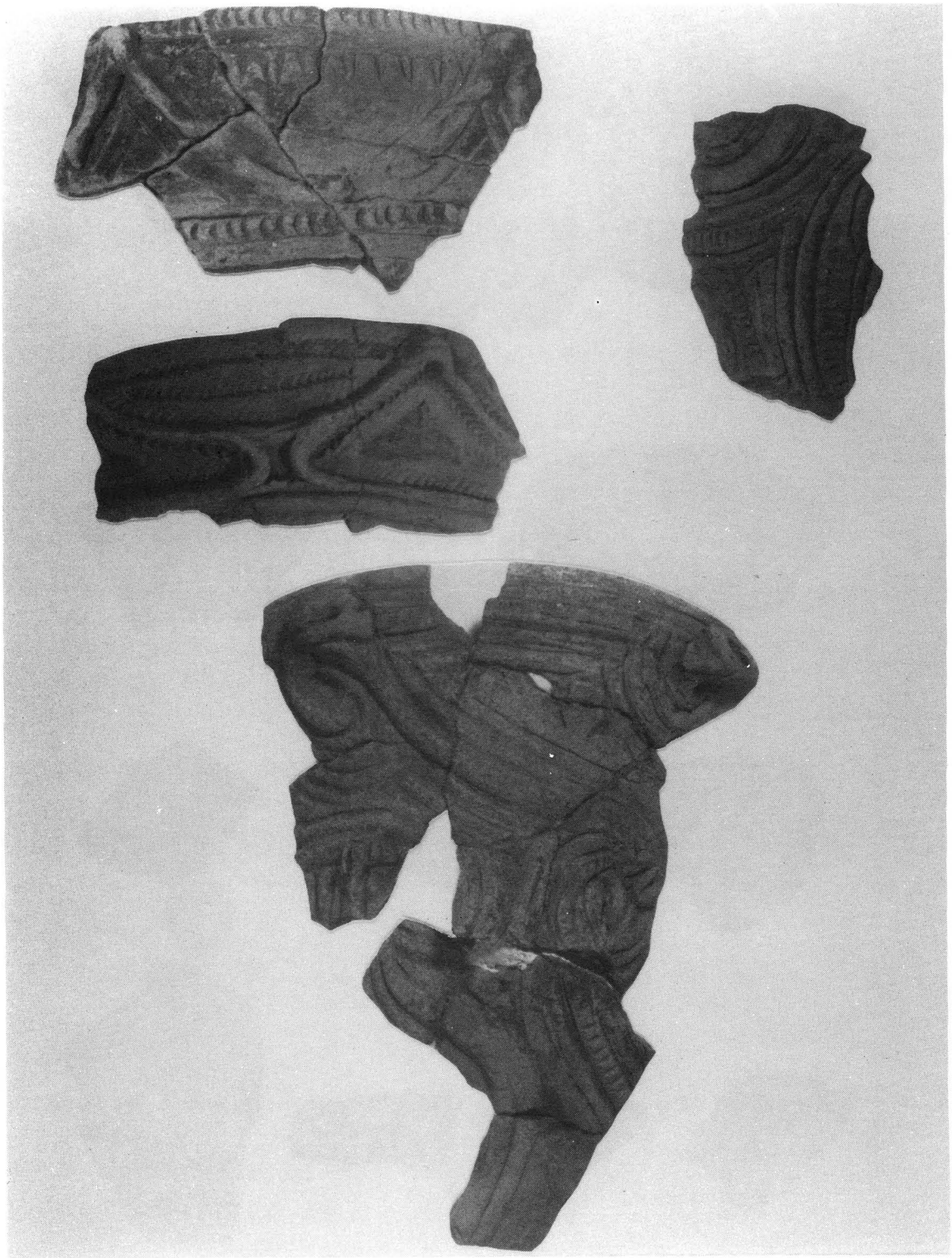
No.13城郭の南約300ｍの地点に位置する丘陵端部が削平され，約40ｍ四方の平坦地がある。南側に土塁が設けられている。城郭というより館跡といった方がよいような遺構である。

Q．境塚（第１図Q）

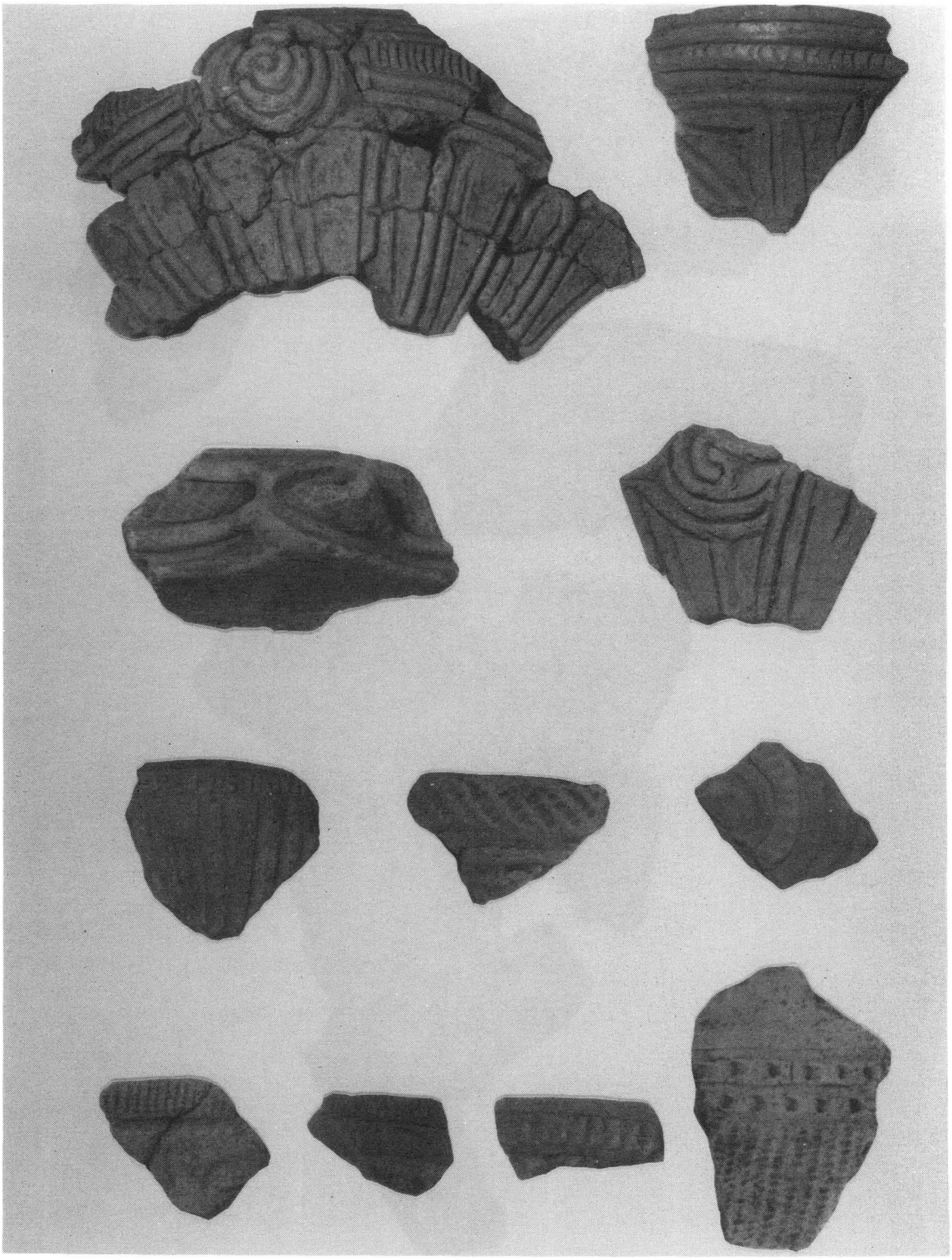
松倉小学校の南東の角川に面した地点に径約10ｍ，高さ約３ｍ塚がある。小字は境塚という。かつては今より大きかったらしく，松倉城の城下町の入口部にあたるところから、中世の何らかの遺構の可能性もある。

R．武隈屋敷（第１図R）

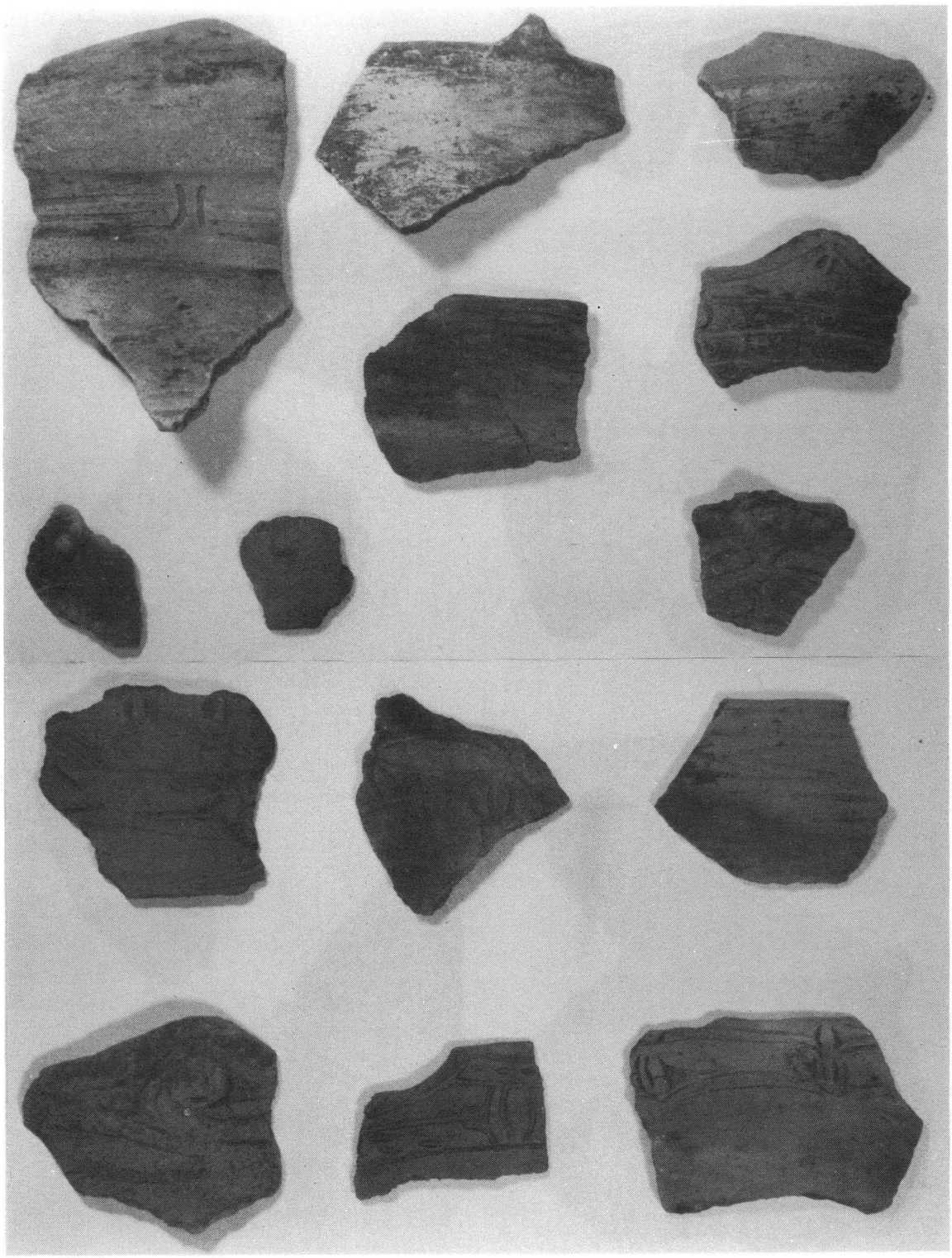
松倉城主椎名氏の家老武隈氏の居館跡。舛形門など形をよくとどめている。周辺に館跡状の土塁が数多くみられ，多数の館跡の存在が予想される。



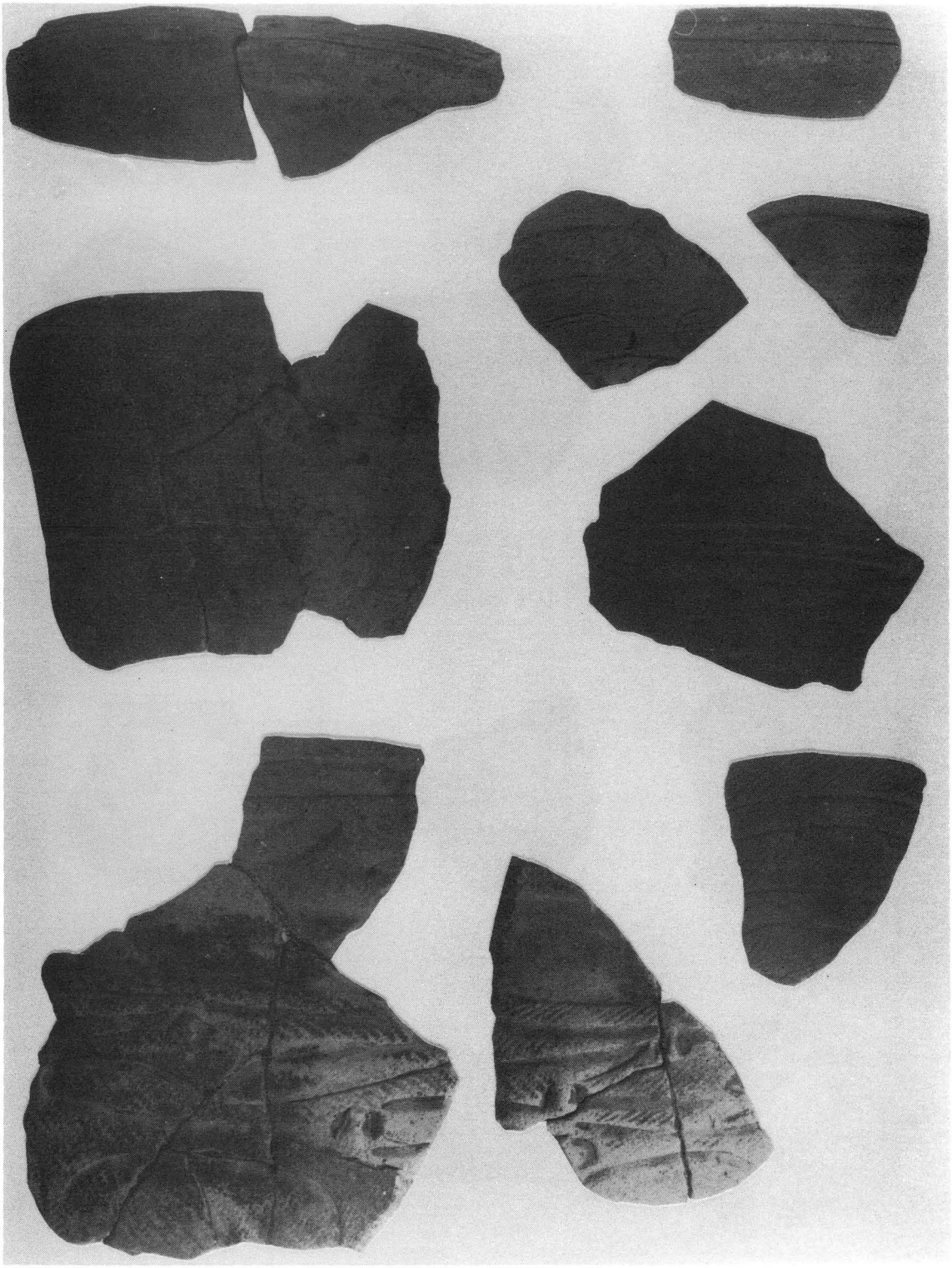
図版１　石垣遺跡出土土器（縄文時代中期）(1/2)



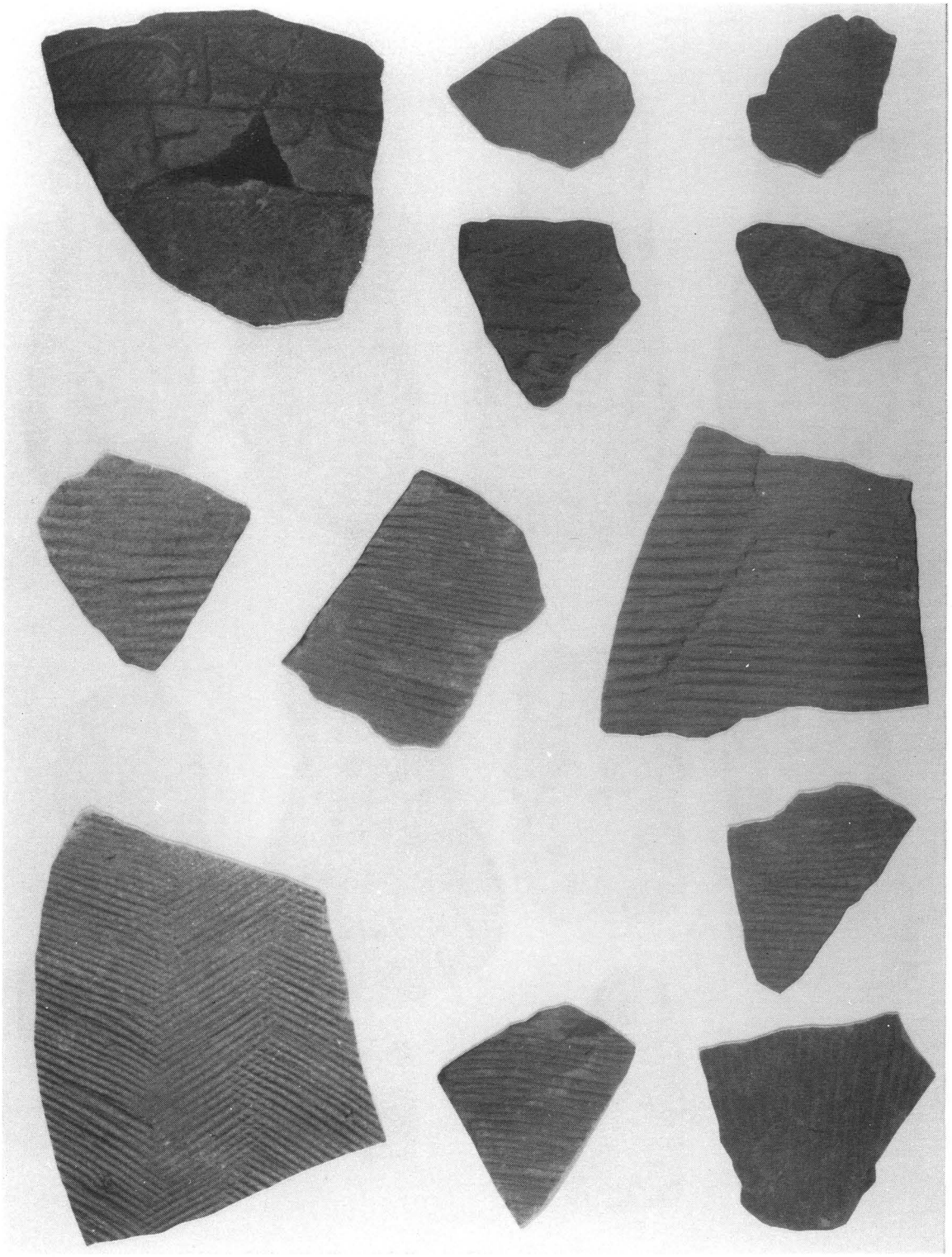
図版２　石垣遺跡出土土器（縄文時代中期）(1/2)



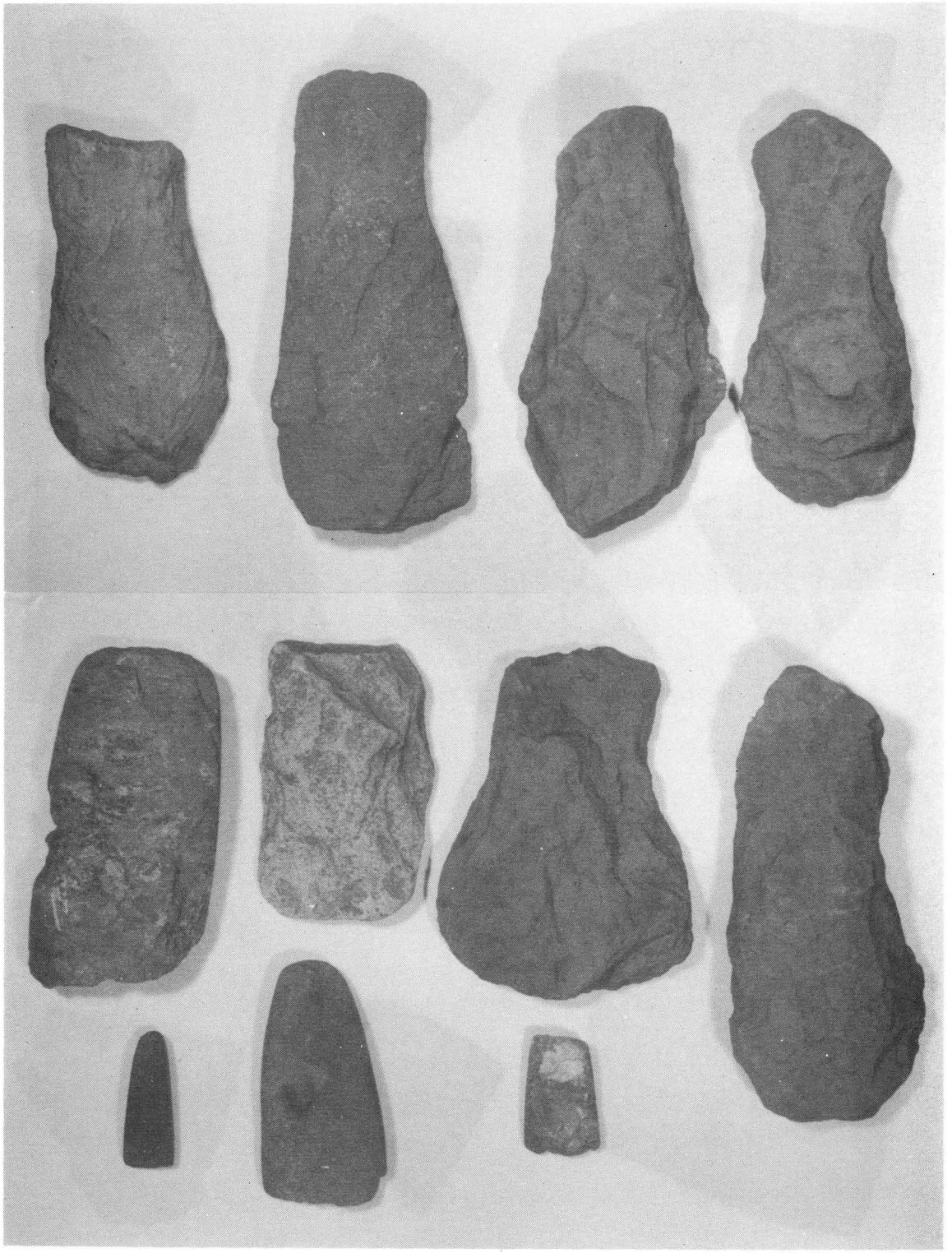
図版３　石垣遺跡出土土器（縄文時代後期）(1/2)



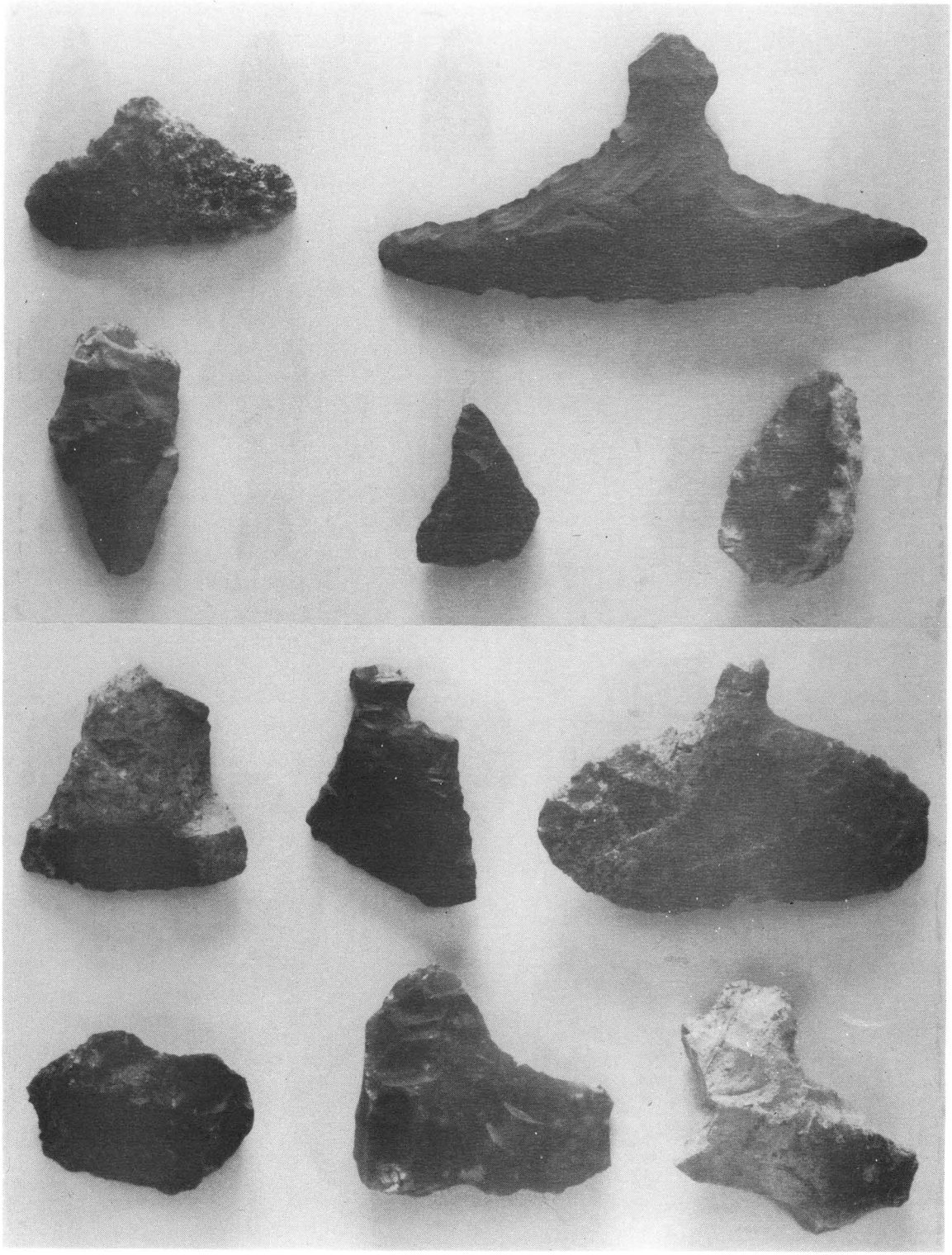
図版 4　石垣遺跡出土土器（縄文時代後期)(1/2)



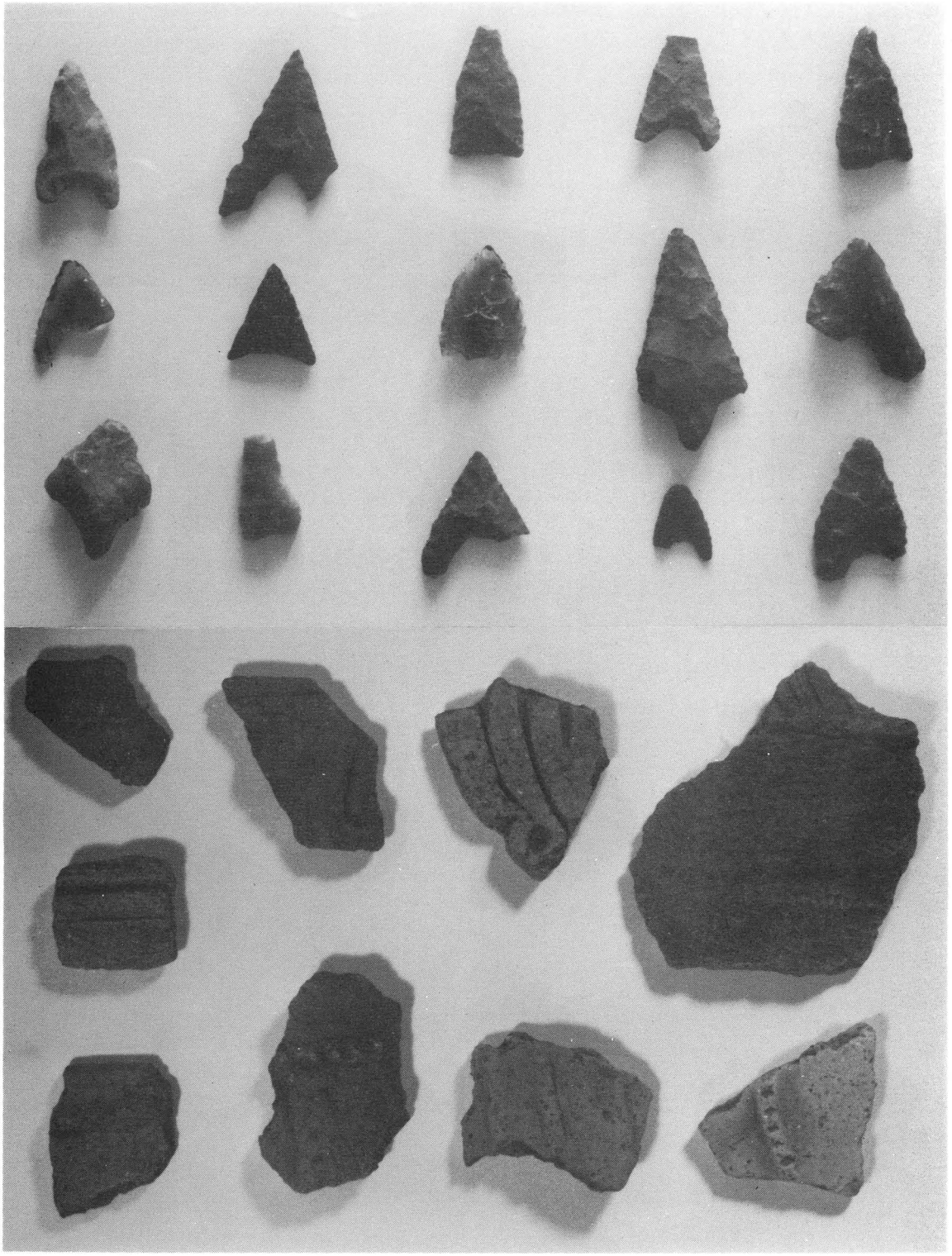
図版 5　石垣遺跡出土土器（縄文時代後・晩期，珠洲焼）(1/2)



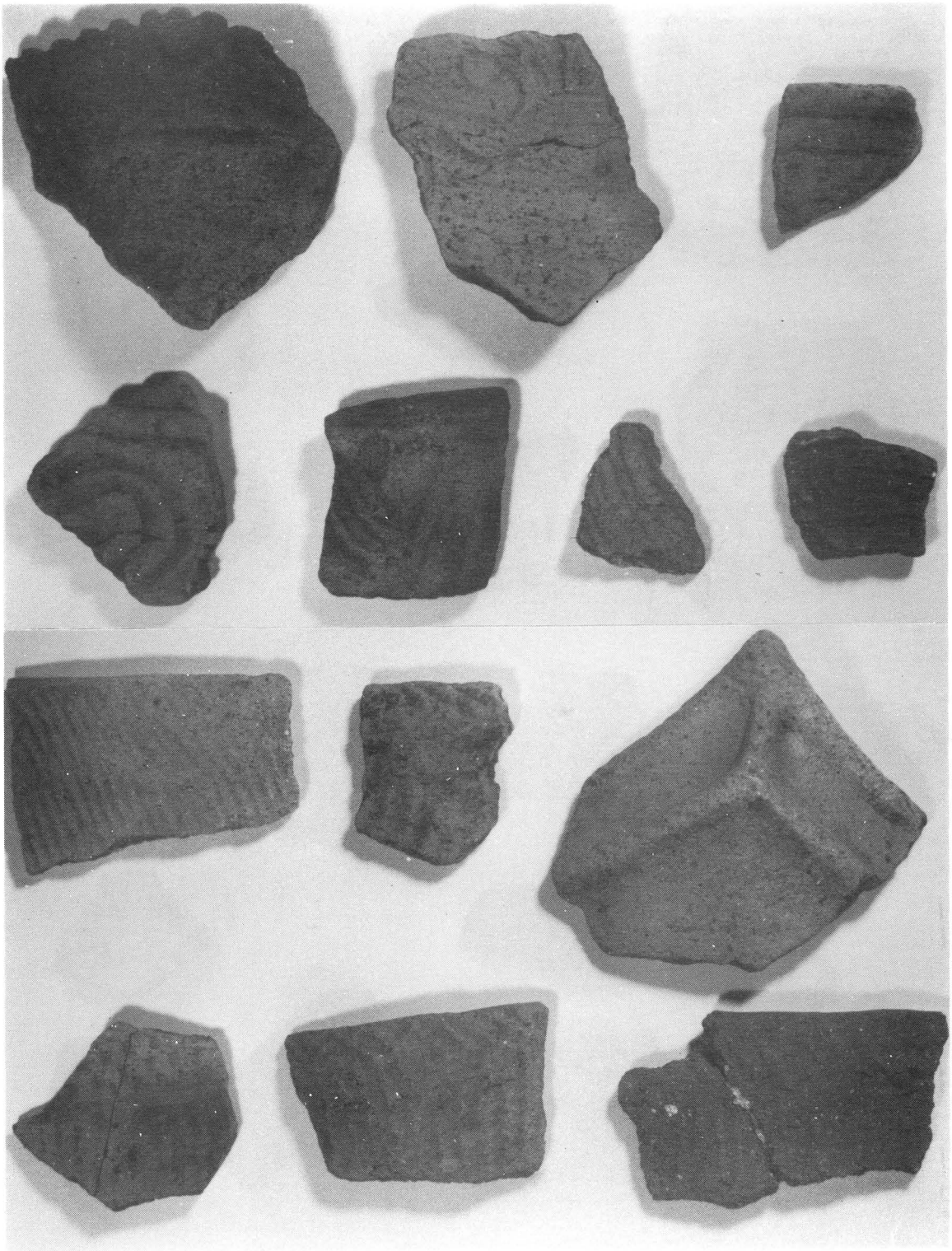
図版 6　黒沢遺跡出土石器（約1/2）



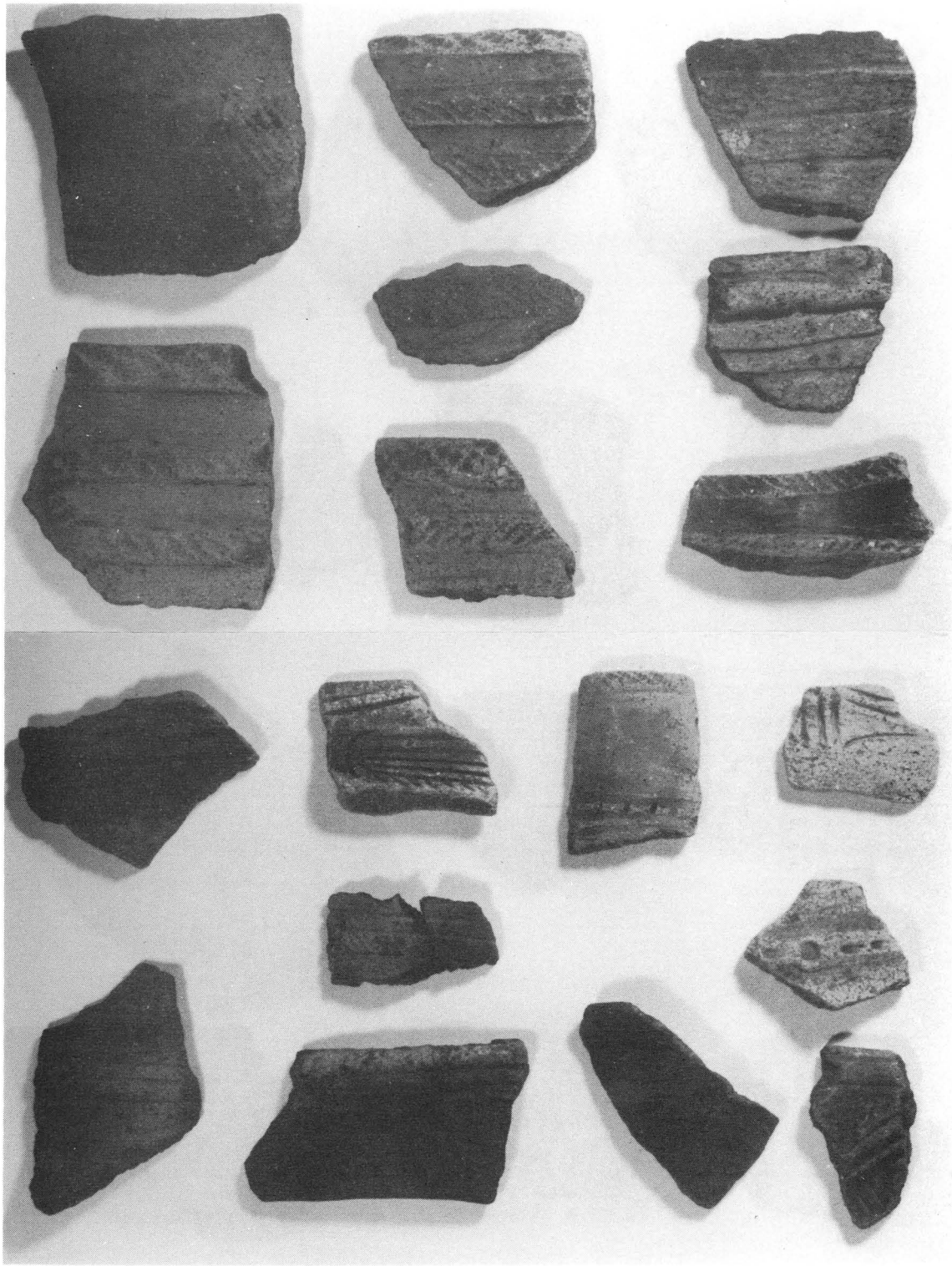
図版 7　黒沢遺跡出土石器（1/1）



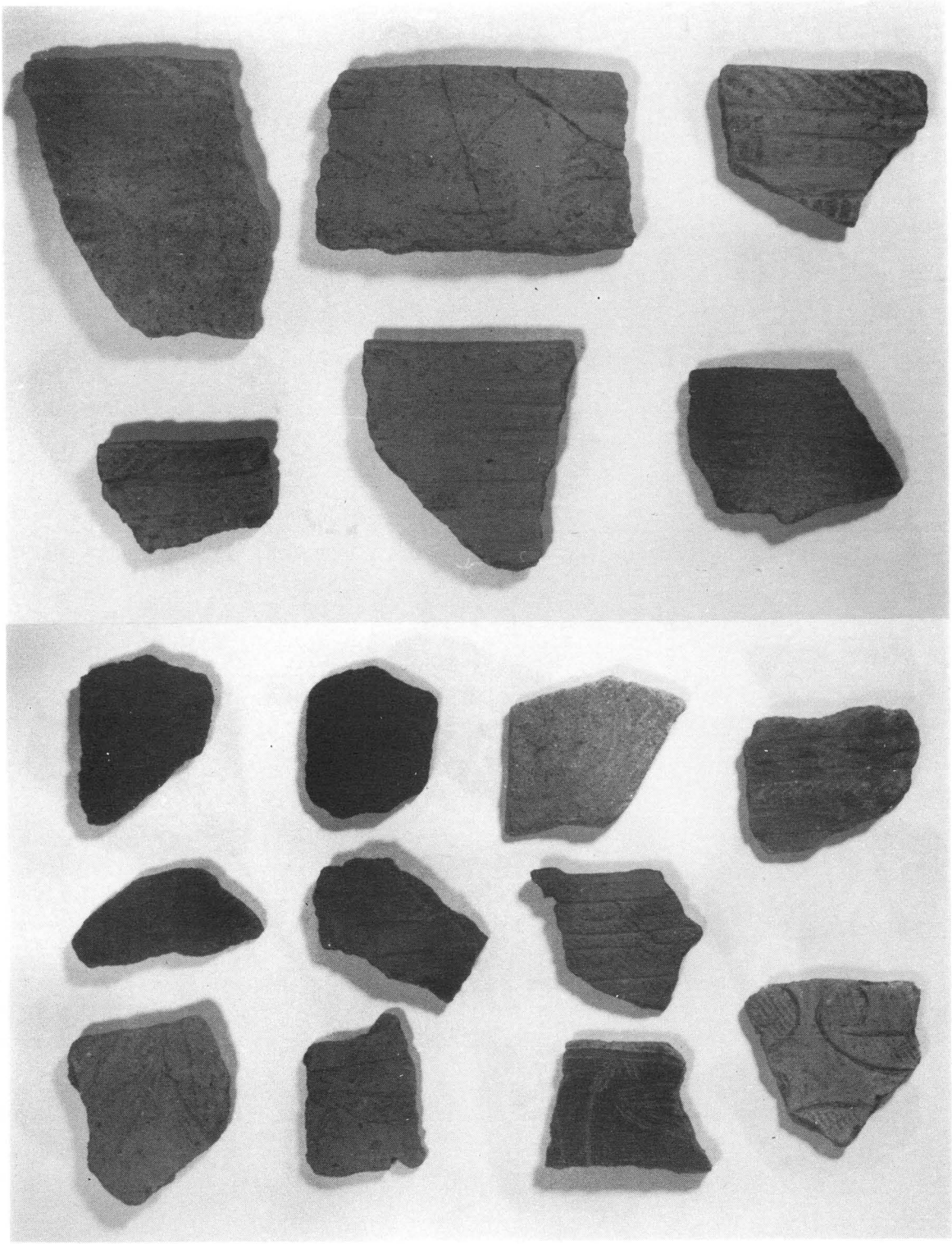
図版８　黒沢遺跡出・石器・土器（縄文時中期）上(1/1)・下(1/2)



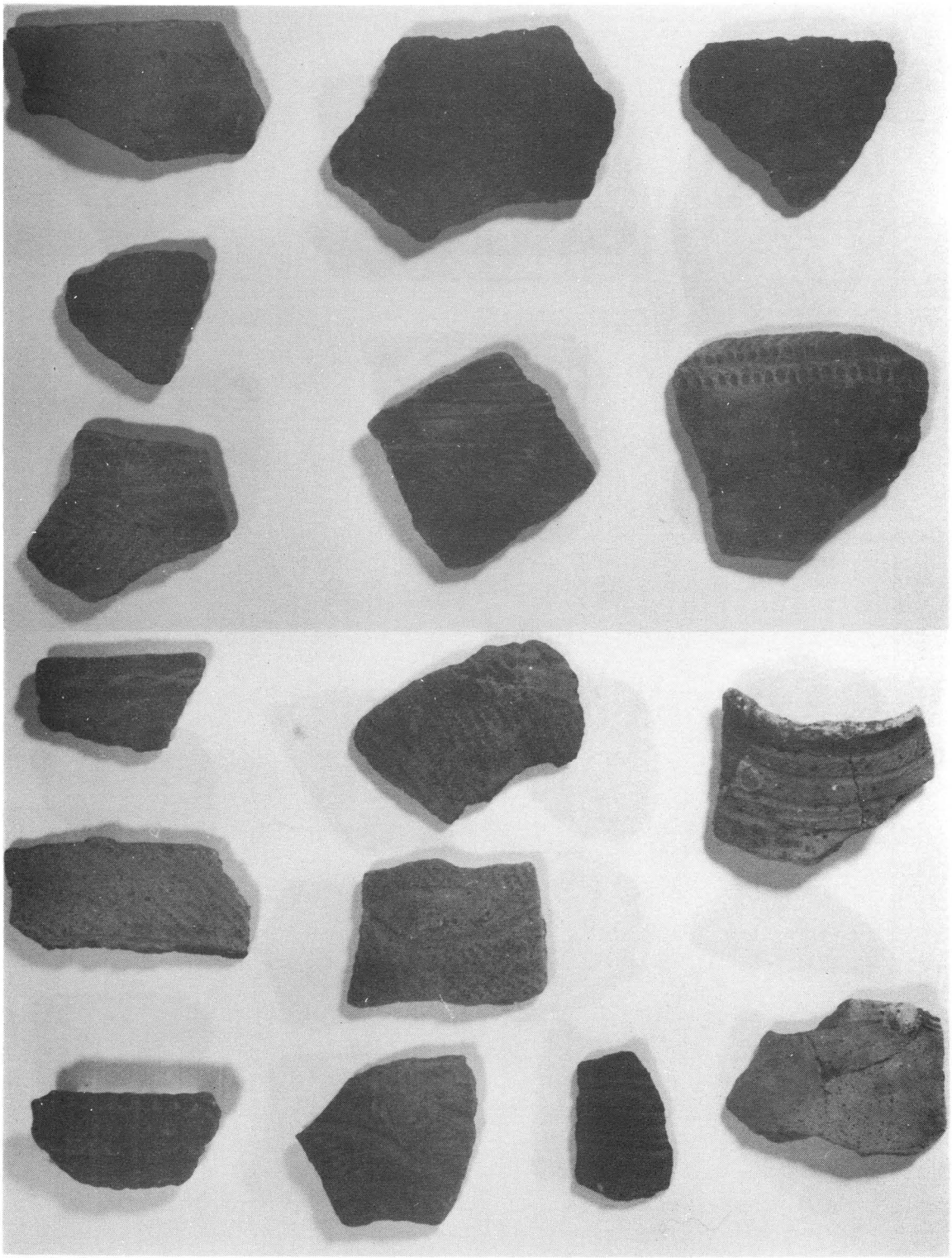
図版９　黒沢遺跡出土土器（縄文時代後期）(1/2)



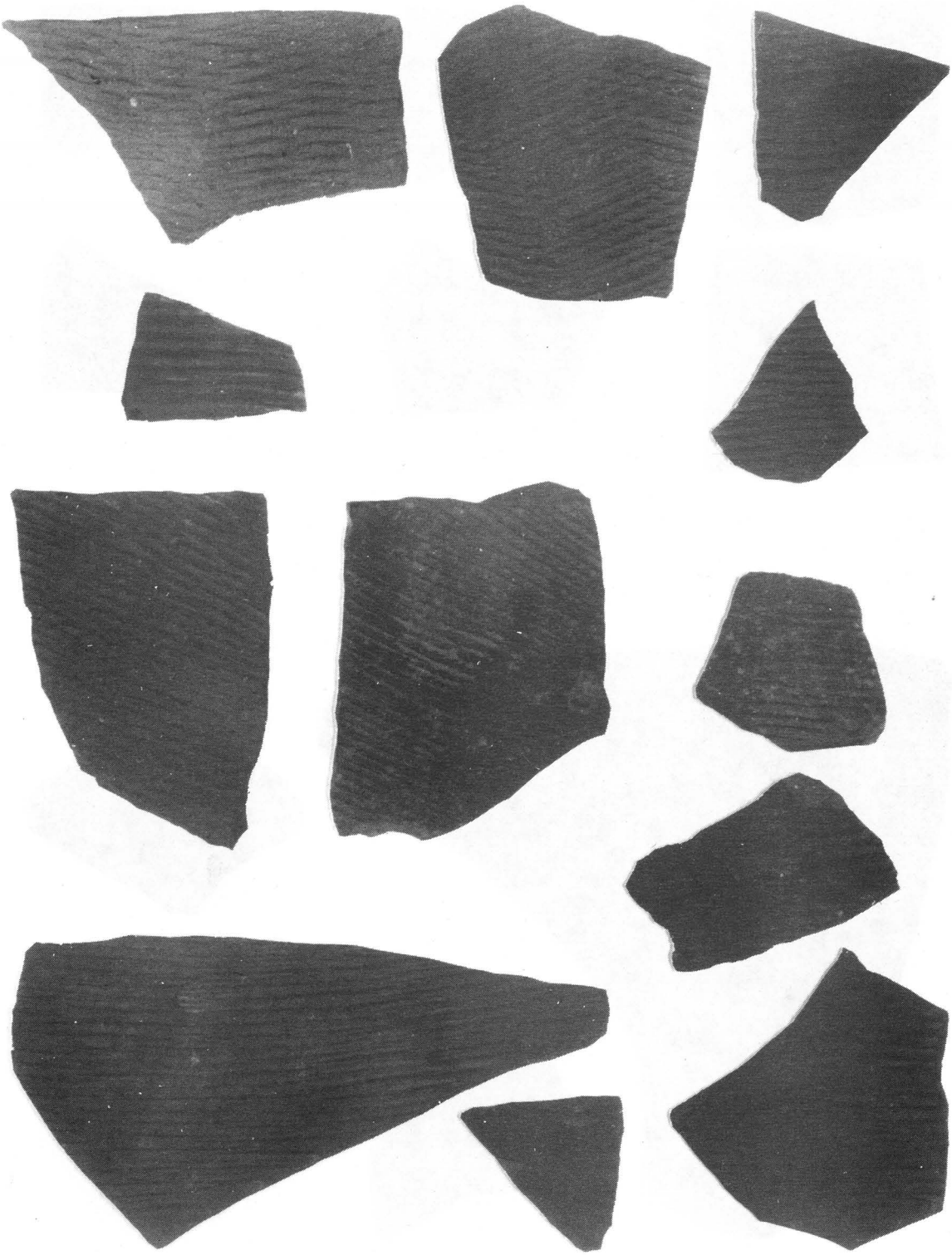
図版10　黒沢遺跡出土土器（縄文時代後期)(1/2)



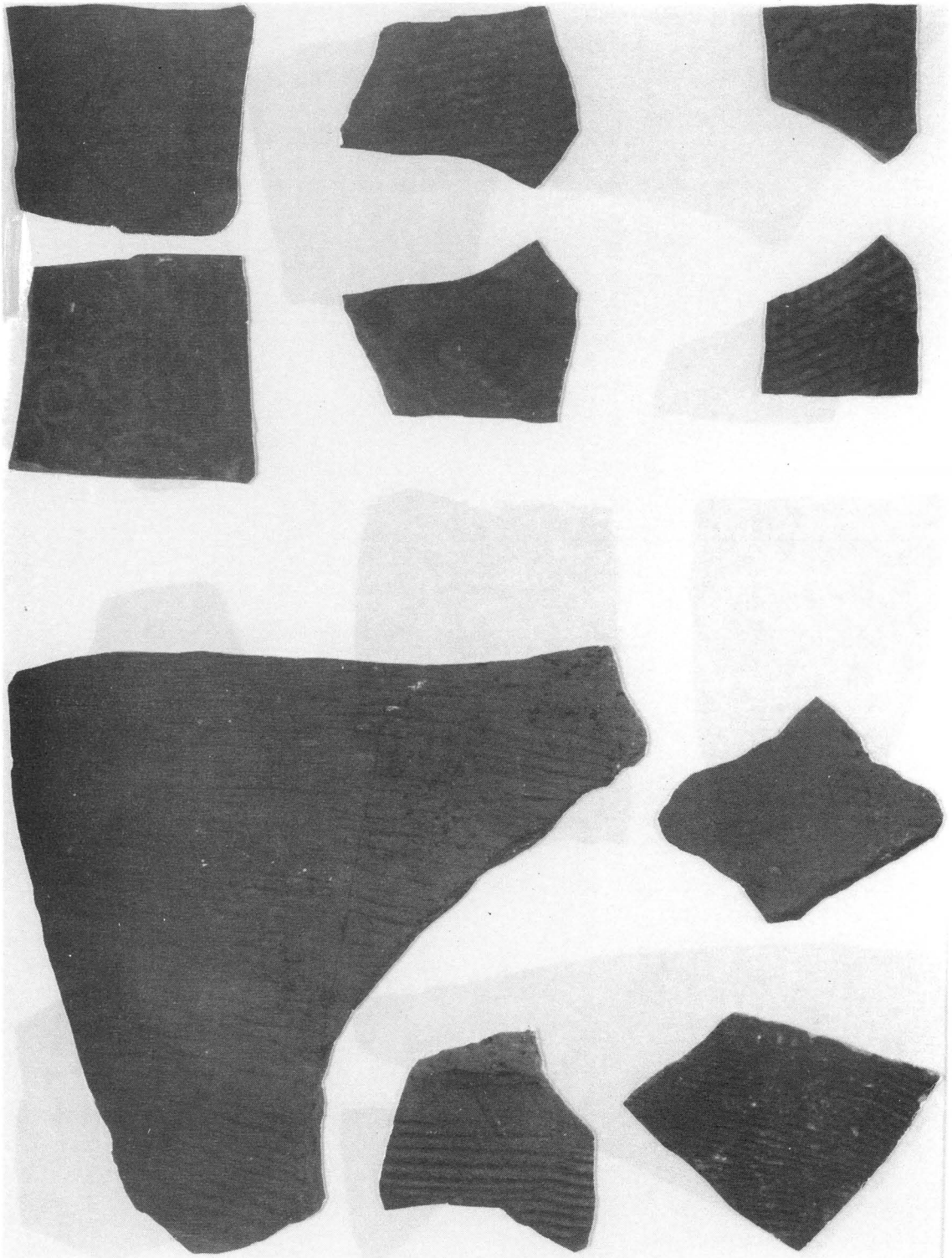
図版11　黒沢遺跡出土土器（縄文時代後期）(1/2)



図版12　黒沢遺跡出土土器（縄文時代後・晩期）(1/2)



図版13　鹿熊オヤシキ出土珠洲焼（1/2）

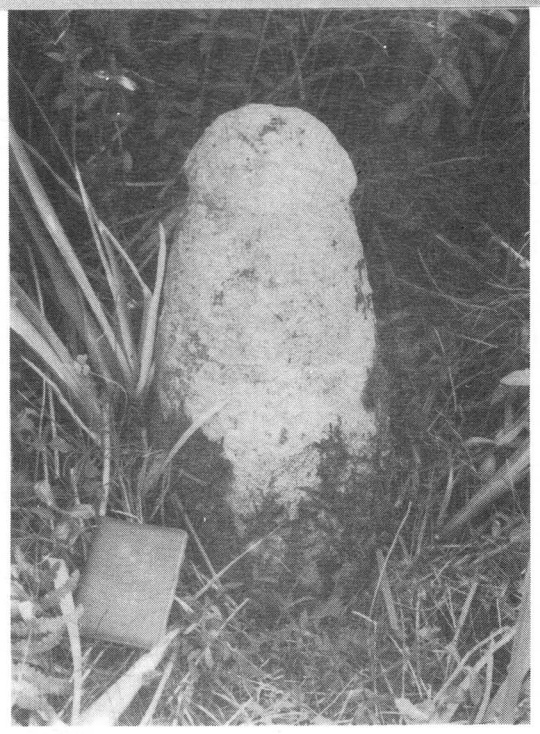


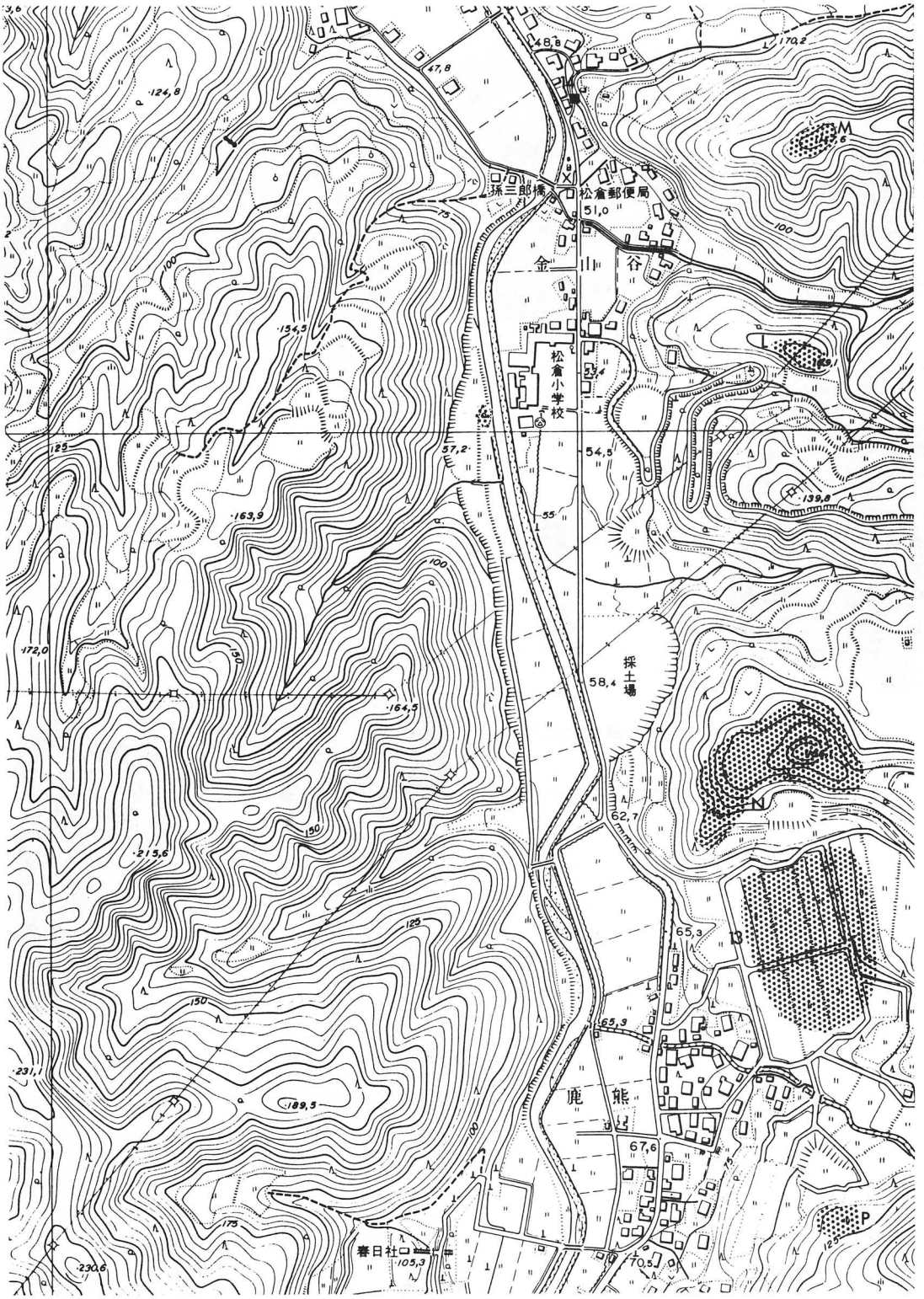
図版14　上・鹿熊オヤシキ出土須恵器
下・松倉城出土珠洲焼　　(1/2)

上・桜峠遺跡出土石器

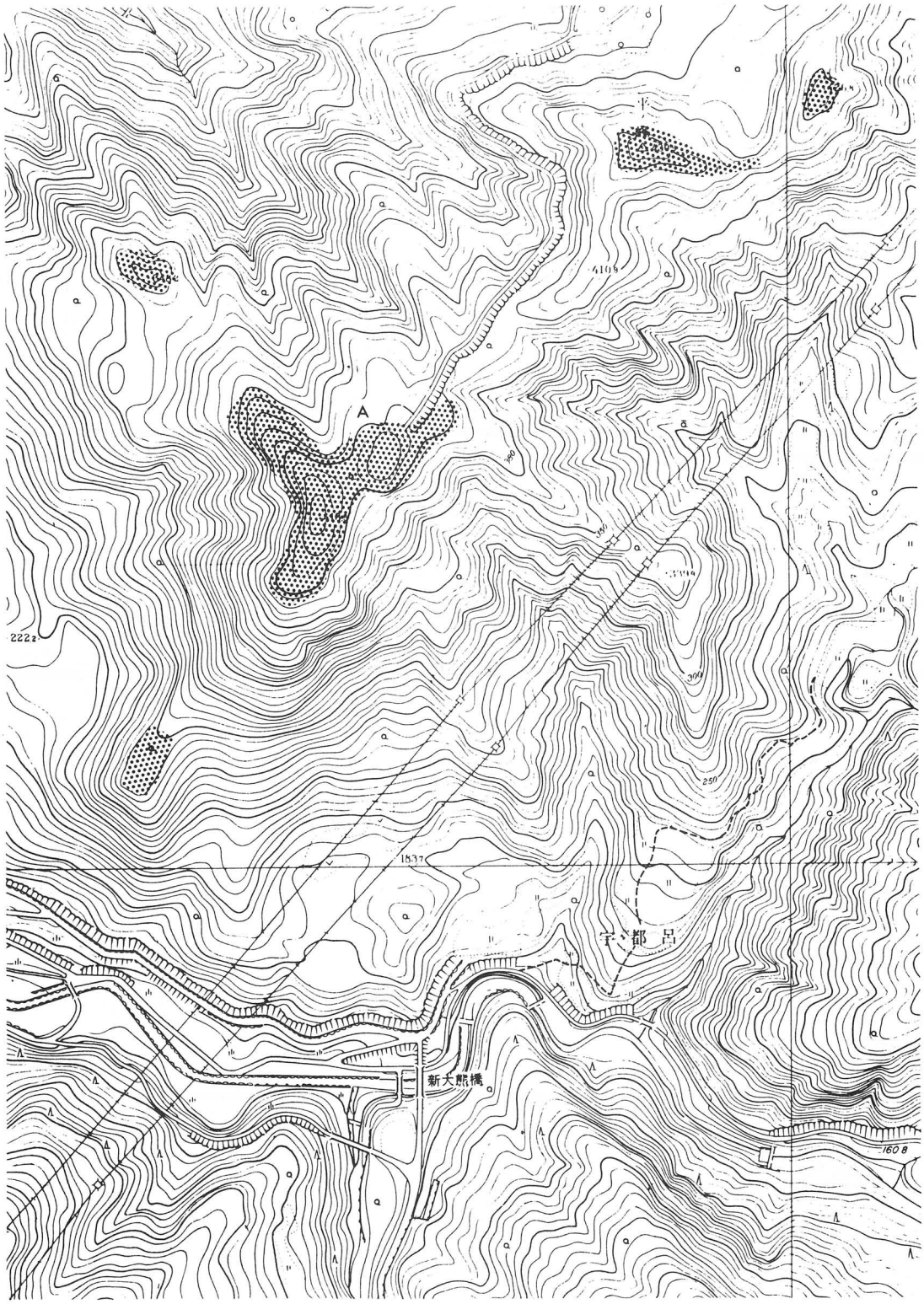
図版15

右・大菅沼Ｂ遺跡の大石棒

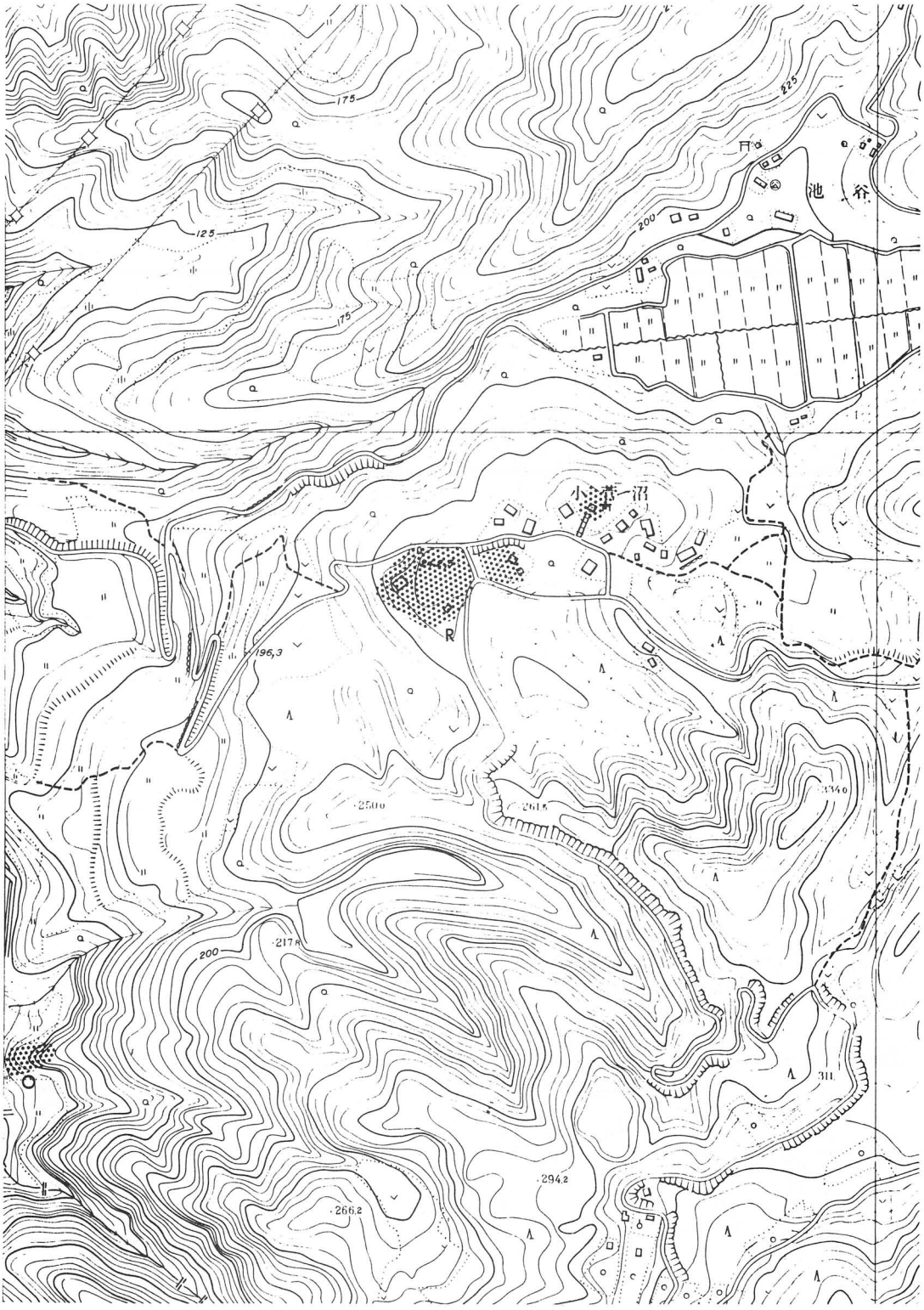




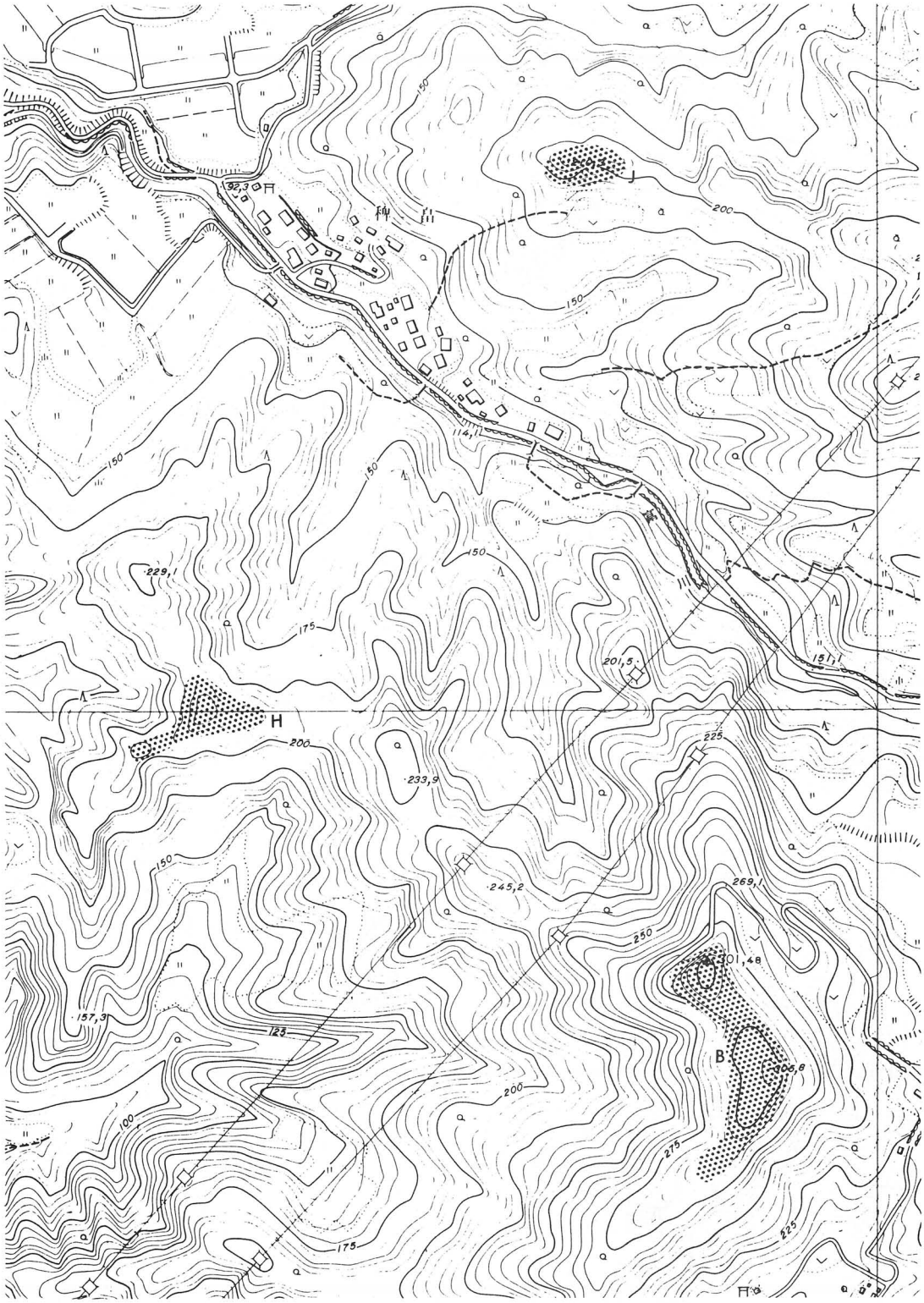
図版16　（1/7500）



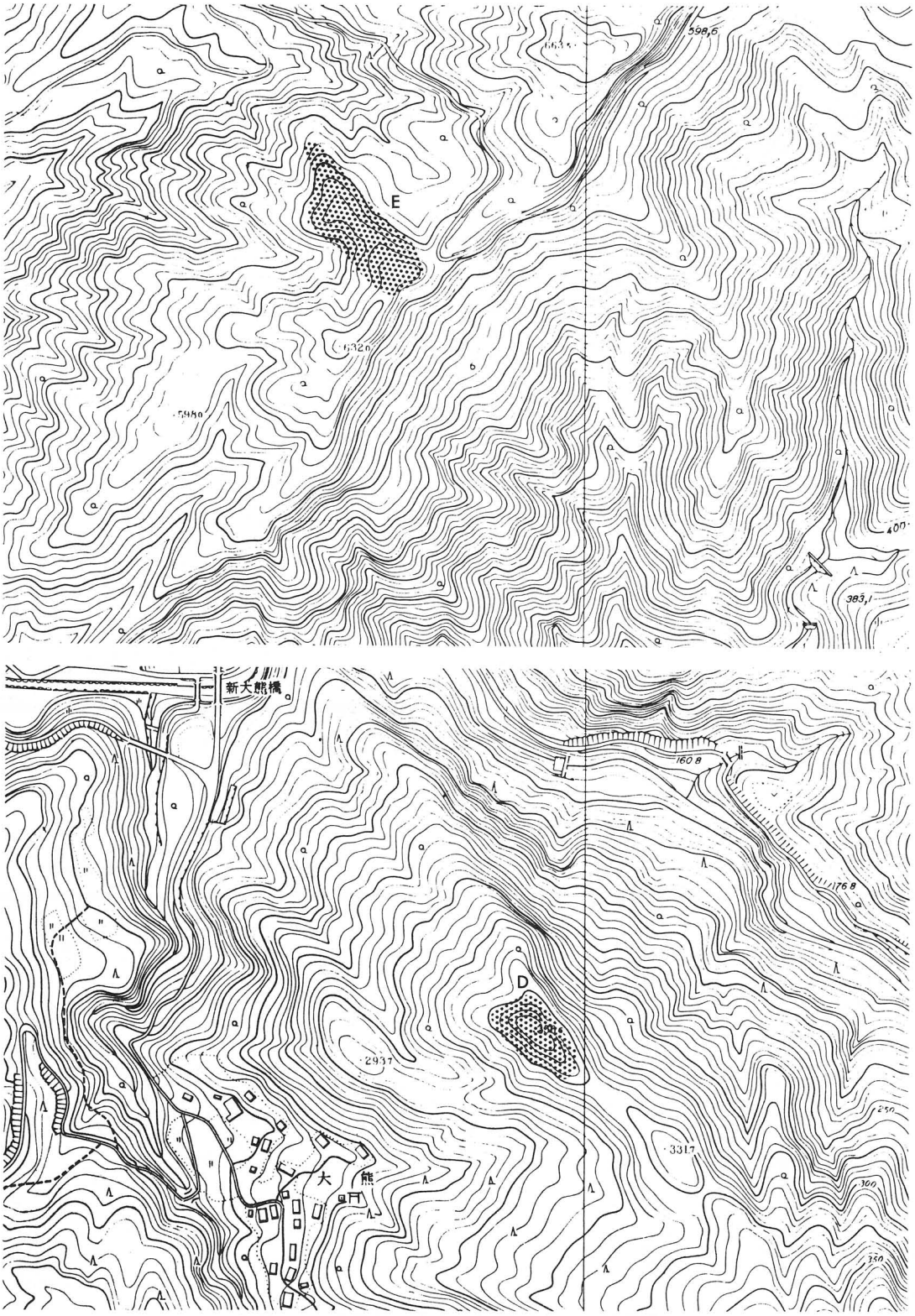
図版17　松　　倉　　城　(1/7500)



図版18　武　隈　屋　敷（1/7500）

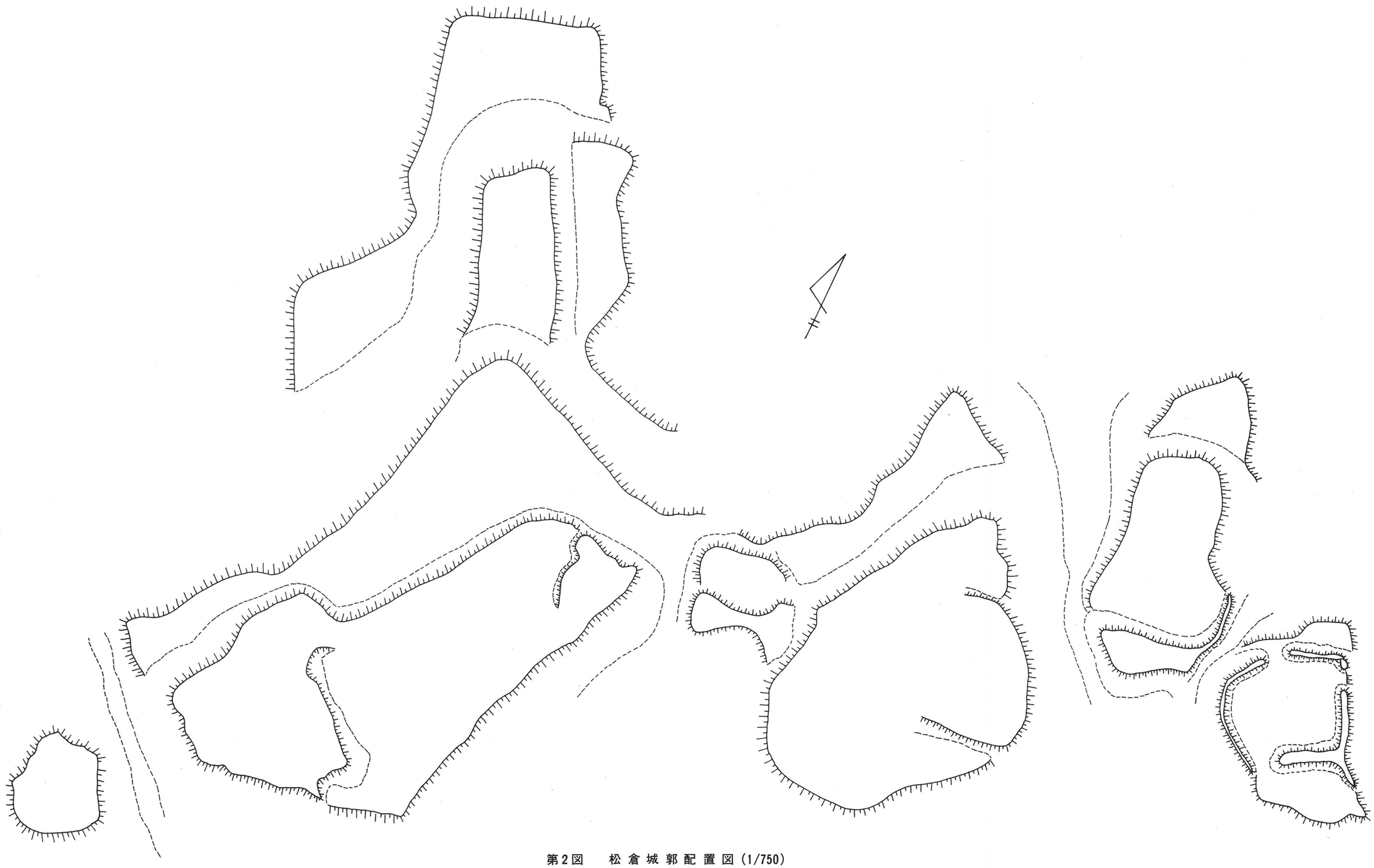


図版19　　金山城（B）と周辺の城郭（1/7500）



図版20　上・No.2城　　郭　　下・No.1城　　郭　(1/ 7500)

第1図　遺跡分布図(1/25000)



第2図　松倉城郭配置図(1/750)

文　　献

1．魚津市教育委員会　1971　『魚津市石垣遺跡発掘調査報告書』

　富山県教育委員会　1972　『魚津市石垣遺跡発掘調査概報』

2．富山県教育委員会　1979　『富山県魚津市佐伯遺跡発掘調査概報』

3．魚津市教育委員会　1983　『富山県魚津市早月上野遺跡』

4．魚津市教育委員会　1983　『市内遺跡分布調査報告Ⅰ』

5．魚津市教育委員会　1984　『市内遺跡分布調査報告Ⅱ』

6．富山県教育委員会　1982　『北陸自動車道遺跡調査報告――魚津市編――』

魚津市埋蔵文化財調査報告書第13集

富山県魚津市

遺跡分布調査概要Ⅲ

昭和60年３月31日発行

発行　魚津市教育委員会
〒937 魚津市釈迦堂1-10-1
印刷　小浜印刷